

## 2005 年を迎えて

JA3AA 島伊三治

2005 年の新春を迎え会員ならびに関係各局に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

最近はずいぶんニュー・スが続きましたが、それをはね除けたのが SEANET2006 の大阪開催が決まったことです。世界有数のアマチュア無線王国と言われながら国際的なアマチュア無線の会合が殆ど開催されなかった(できなかった?) 日本でその殻を破ったことでありしかもそのホスト役が我々のクラブです。世界の方々から大阪へ行って良かった来て良かったと思って戴けるよう皆様のご協力を得ながら準備を進めたいと思いますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。



さて昨年は、その年を象徴する漢字に選ばれた「災」の示すとおり本当に災害の多い年でしたが、アマチュア無線による非常通信で新聞に報道されたのは関西学院大学の雪山遭難だけでした。それも新聞紙上でアマチュア無線の活字を久しぶりに見るものでした。アマチュア無線が新聞で報道されない方が世の中平穏なのかと阪神大震災 10 周年を迎えるに当たって考えていましたが、年末のスマトラ沖大地震による大津波でアンダマン諸島へ DX-Ped 中の VU4 の局に世間の注目が集まっているようです。

2005 年は災害から抜け出し平和な日々が送れるよう祈っています。各局のご健康と更なるご活躍を祈念いたします。

## ベトナム事情

JA3UB 三好二郎

私は 1989 年の 12 月に日本ベトナム産業協会の派遣団長としてホーチミンを訪問し、ベトナムの人達に初めてアマチュア無線を紹介し、それに関する講演をする機会を持つことができました。関係機関の幹部や指導者、そして学生さん等にお話した要旨は次の通りであった。

アマチュア無線は元来個人的な趣味として、無線技術に興味を持つ者が自分で送信機や受信機を製作して、その性能を実験するために実際に電波を放射して通信し、その交信を通じて人々の友好交流を増進してきた。特に青少年はアマチュア無線の活動に参加することによって科学的な理解力と技術向上に関心を持つだけではなく、知恵と能力の開発やアイデアを生み出すことに効果があることが実証されている。アマチュア無線が単に個人の趣味の領域にとどまらずにその意義と価値が広く社会に認められている。また世界共通の電波の周波数を用いるので、放送業務や各種の無線通信業務等と同様に国際電気通信条約の無線通信規則の中でアマチュア無線の制度も位置づけられている。いたるところに存在する合法的なアマチュア局による自然な監視下において常に技術レベルを基準以上に保たなければ円滑な運用ができない仕組みになっている。一方、市民レベルでの国際交流活動にも寄与している。多くの国や地域において学校や公共活動の場に於いてアマチュア無線活動が出来るように配慮されている。

そして 2004 年 12 月にベトナムで正式にアマチュア無線が発足して 15 周年目を迎えるので更なる発展を期して記念行事をするとの招待状を受け取った。度々訪れているホーチミンではあるが、通称名サイゴンが一般的になり戦前の活気を取り戻した上に近代化が進み、携帯電話、衛星テレビ、タクシー無線は当たり前、格安で利用できるインターネット

カフェもあちこちにあって、改めて 15 年前との違いを再認識した。

日本からの短期間の旅行にはビザも不要になって一般の観光客もドット押し寄せるようになり、休暇を彼の地でアマチュア無線を楽しもうとする外国人が増えてきた。ベトナムの経済開放政策は成功面も多い反面ひずみもあり交通事故の多発や犯罪増加等に公安当局も厳しい目を光らせている。その影響もあって外国人に対するアマチュア無線の許可条件も厳しくなっている。我が国が実態として外国人には未だ多くの制約を設けているのに、他の国のことをとやかく言うのは気が引けるが。

ベトナムの人達によるアマチュア無線活動は、無線局の免許制度はあるが、資格を取得する制度が無い為に従来セミナーを開いて修了者に資格を付与してきた。従って現在資格者の大半は関係機関に関りのある人達で占められていて純然たるハムは所謂アンカバで、本物のハムを如何に育成するかが課題である。

(4 ページに記念式典の関連記事を掲載)



## 一枚の写真から

この色あせ薄汚れた写真は 1969 年の正月に撮影したもので、かれこれ 36 年前の写真である。場所はタイ国バンコクの HS1AF 宅での一こまで、左から HS3WC, VE7IR, HS3WT, HS1KA, HS1CB, HS1AF そして HS1TA(JA3AER) の私である。去る 11 月バンコクで開かれた SEANET コンベンション 2004 で、タイ国のアマチュア無線の歴史のプレゼンテーションがあり、この頃はアマチュア無線の空白時代であったと説明されたが、現にアマチュア無線家は私も含めタイ国に存在し QRV していたのである。しかし、この頃の免許は行政府が発行するものではなく、タイ国のアマチュア無線クラブ (STAR - Society of Thai Amateur Radio) が会員証として発行したカードにコールサインがタイプされたもので

JA3AER 荒川泰蔵

あった。タイ人の HS1CB チャンキッジ (写真の右から 3 番目でタイ警察の高官) がメンバーを管理し、アメリカ人の HS1BD ボブがカードにサインをしていた。写真で見るとアメリカ人、カナダ人、オランダ人、日本人と、多くの外国人ハムが住んでいたが、当時タイ人ハムに出会ったのは HS1CB チャンキッジだけであった。現在の RAST (Radio Amateur Society of Thailand) との関係はどうなっていたのか、当時の運用が合法的ではなかったかも知れないので、それを聞き出すのに躊躇しているところである。

## HS1TA の巻



## SEANET2004 in Bangkok に参加して

## 2006年のSEANETコンベンション大阪に決定!

JA3AER 荒川泰蔵

第32回SEANETコンベンションは、2004年11月19日から3日間、タイ国の首都バンコク(Bangkok)で開かれた。会場となった Arnoma

Hotel はバンコク市内の中心、繁華街にあった。開催の準備を中心になって進めてこられた HSOZDZ, Ray さんが直前で急病入院され心配したが、タイのスタッフのチームプレーで開催され、10数ヶ国から約150名が参加して盛況であった。我々大阪国際交流センターラジオクラブの会員及び会友として JA3AA, JA3AER, JA3QUU, JA3USA, JE3BEQ, JA4HCK, JA9AG らが参加したが、日本からは家族を含めて約20名の参加があった他、タイ国在住の HS0/7L1MFS 吉田さんと JH1LRO 岡部さん、マレーシアのペナン在住の 9M2KE (JR4PMW) 河野さん、そしてインドネシアのジョグジャカルタ在住の JJ1XQP/YB2 西浦さん達も参加された。HSOZDZ, Ray さんを病院まで見舞いに行きたいと思ったが、彼の家族の強い意向でそれはかなわず、会場に用意されたサイン帳にお見舞いのメッセージを記帳するだけにとどめた。

## 初日、11月19日(金曜日)

私は前日に関西空港からバンコク入りしたが、当日の午後には多くの参加者が続々とチェックイン、旧友との再会を喜び会う人達、初めての出会いにお互いを紹介しあう人達で賑やかになった。夕刻からの歓迎パーティは正式な晩餐会で、あわてて正装に着替えに帰った人もあったが、RAST(Radio Amateur Society of Thailand)の会長 HS1YL, Mayuree さんの歓迎の挨拶でパーティが



始まり、タイダンスなどのショーを見ながら食事を楽しんだ。また、ホテルの最上階には特別局 HS27B が設置され、DU9/G4UNL, Roy さんによる SEANET のコントロールで運用開始となったが、この局は SEANET 以外の目的にも免許されており、それ以前に QSO された方もおられると思う。特別プリフェックスの「72」はクィーンズの6サイクル目(72歳)の誕生日を祝ったもので、今年だけの特別プリフェックスだそうだ。リグは TS-840 が2台セットアップされ、アンテナは屋上のロンビクアンテナと、7MH 専用のダイポールアンテナがつけられていた。このほかにローカルとのコンタクト

用に U/VHF の機器もセットアップされていた。今回の QSL マネジャーはタイの E20NTS (P. O. Box 5, Klongthanon, Bangkok 10222, Thailand) である。

## 2日目、11月20日(土曜日)

この日は参加者の親善観光ツアーだったが、その前に集合写真を撮って9時ごろ3台の観光バスに乗り込み出発した。市内を見物しながら王宮やエメラルド寺院、それにウイマンメーク宮殿(博物館)を見学、思い思いの記念撮影を済ませた。昼食はチャオピア川に浮かぶ水上レストランだったが、ここでも食事をしながら参加者の親睦を深めることができた。メイン行事のガラ・ディナーでは民族衣装での参加を促されていて、JA3AA 島さんは和服姿で出席された。前日の舞台はさらに飾りつけが増えている、食事と共に楽しめる雰囲気を出していた。司会は HSOZEX, Tony さんと HS0ASC, Thida さんのコンビで進められたが、各国の参加者が舞台でお国の歌や踊りを披露する恒例の行事で盛り上がり、日本の出番では JE3BEQ 宮本さんが準備し、指揮をとって「見上げてごらん夜の星を」と「上を向いて歩こう」を皆で合唱、9M2KN, Ken さんや日本に留学経験のある HS4ILL, Boom さん達も参加してくれた。



## 最終日、11月21日(日曜日)

この日の講演会は9時過ぎから始まり、「タイ国のアマチュア無線の歴史と現状」と「タイの若手HAMによるDXベディション」のプレゼンテーションであった。通常これらのプレゼンテーションのあと休憩があって、次々回の開催候補地の立候補とその投票があるのだが、今回は2つのプレゼンテーションの間に、「大阪開催候補」のプレゼンテーションをするよう、司会者 HSOZEX, Tony さんから突然指名があり、HS0ASC, Thida さんが私を紹介してくれた。JA3UB 三好さんを中心に JE3BEQ 宮本さん、JA3VWT 中野さん達と共にコミッティーとして準備してきたスライドでプレゼンテーションをすると同時に、会場に居た JA3AA 島さん、JA3USA 島本さん、JE3BEQ 宮本さん、JA3QUU 西間さん、JA4CHK 馬場さん達ラジオクラブのメンバーや会友が、用意した案内のしおり(パンフレット)や大阪の地図を含む観光案内書などを参加者に配布した。休憩(コーヒーブレイク)のあと、9M6CT, Phil が

議長となり次々年度の SEANET コンベンションの開催地を決めることになった。この時間に合わせて遅れて参加した人達は、私達のプレゼンテーションを聞く機会を逸したので不満があったようだが、議長が大阪以外に立候補がないことを確認した後、大阪での開催に賛成と反対の意思表示を挙手で示すよう求め、賛成多数、反対なしで「大阪」に決定した。



そのあと、次回の開催地のバンガロールの代表者 VU2GMN, Gopal さん及び VU2DH, Das さんが2005年11月7日から3日間、バンガロールで開催されるコンベンションへの歓迎の挨拶をしたが、HSOZDZ, Ray さんが不在のためペナントの引継ぎは省略された。



尚、今回のコンベンションの様子は <http://www.seanet2004.com> で見ることができ、また、次回のコンベンションの案内は <http://www.seanet2005.com> で見る事ができる。

## SEANET2006に向けて

いよいよ2006年に「大阪」での開催が決まったことを受けて、12月度の大阪国際交流センターラジオクラブの月例会を控えた去る12月6日に、大阪で JA3UB 三好さんを中心に JE3BEQ 宮本さん、JA3VWT 中野さん達と、コミッティーとしての打合せを行い意見の交換と今後の準備について話し合った。これはラジオクラブのメンバーや会友は勿論、関心のある全国のアマチュア無線家の協力を得なければならないと考えている。初めての日本での開催であり、海外からの参加者の期待を裏切らず、日本に来てよかった、SEANET2006に参加してよかったと言われるよう皆の協力が必要で、2年先とは言え、次回のコンベンションでの具体的なプログラムの提示を考えると、それほど日程に余裕はない。前月号で既に JA3AA 島さんが述べておられるとおり、SEANET2006に向けて関係者のご協力をお願い致します。

# ワイヤ・アンテナ

JA3PYC 山本 哲夫

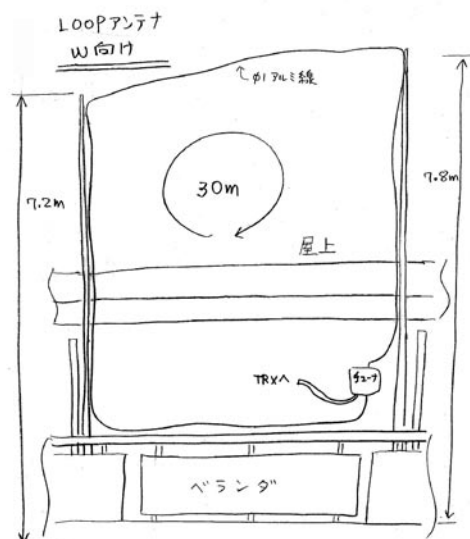
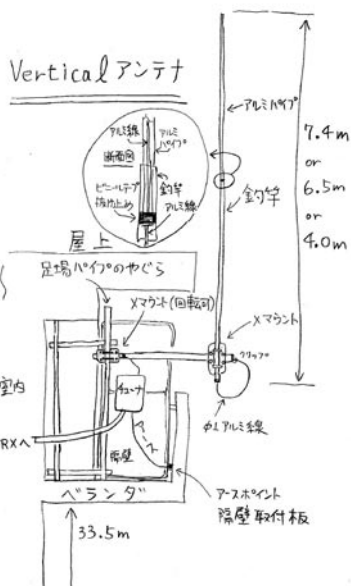
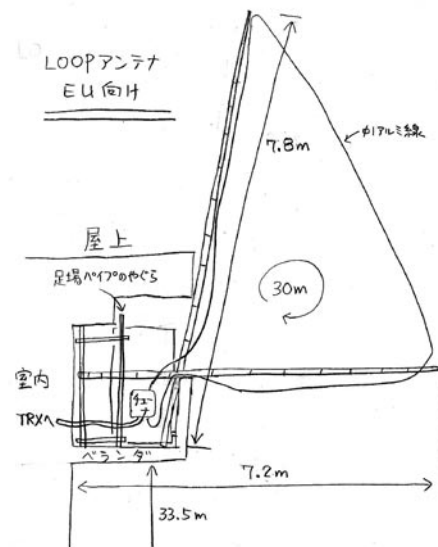
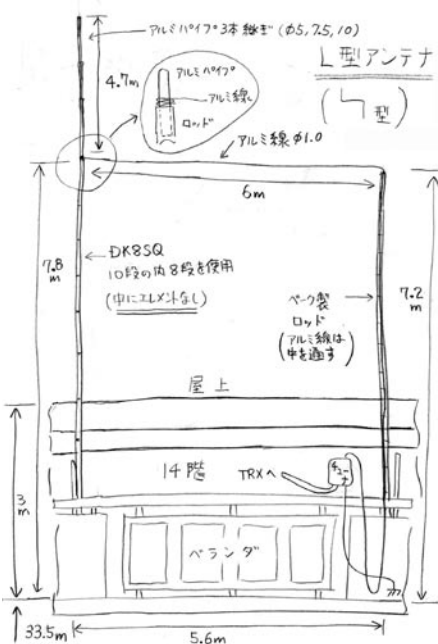
いつも使っているワイヤ・アンテナを紹介します。最初に、最近朝早く起きては組み立て上げている160m用アンテナです。L型アンテナと呼んでいます。実際は、逆Lの変形で、先が垂れ下がっているのではなく、立ち上がっています。全長は約20mです。アンテナは最低でも波長の8分の1の長さがないと効率が悪く寂しい思いをします。

160mの場合には20mですから、このアンテナで何とか楽しめる程度になります。狭いベランダで長さを稼ぐには、ぐるっとベランダの周りを一周させるしか方法がありません。その場合、先が垂れ下がってしまいますが、このアンテナでは逆に立ち上げてみました。こちらの方が私の所では良く飛びます。このL型アンテナの構造は、長さ2mのアルミパイプを3本繋ぎ合わせて、それを図の左側のロッドの上に差込みます。そして、アルミパイプの下に直径1mmの園芸用のアルミ線を繋ぎ、横へ図では右隣のマストまで張り、そこから下へ降ろしてアンテナチューナに繋がります。アースは隔壁の取り付け金具がアースに落ちていたので、これを利用しています。アースポイントの確認は、AC100Vとの間に100Vの電圧が掛かっているかどうかで確認出来ます。半分50Vの場合は浮いています。

アルミパイプの接続は、細い方のパイプを太い方へ差し込み、両方に小さな穴を開け、金属クリップをその穴に差し込み仮止めしています。アルミパイプとロッドとの接続は、ロッドの方にテーパが付いているので、アルミパイプの下の方にビニールテープを巻いて抜け止めを作り、アルミパイプをロッドの下から差し込み、ロッドの先のアルミパイプが出ている所をビニールテープで止めています。アルミパイプとアルミ線の接続は、アルミ線を数回アルミパイプに巻きつけた上からビニールテープを巻きつけています。

160m用のアンテナでは、他にコイルを途中に入れてみたり、折り返してみたりしましたが、いずれも効果がありませんでした。CQ誌の2004年12月号に載っているMicroVertアンテナは給電点が高く良さそうに思えますので、今度はこのアンテナを実験してみたいと思っています。

2番目のアンテナは、普段使っているアンテナで、VERTICALアンテナです。長さは図中に示す通り3種類あります。あまり長いと28Mが飛びません。短いと7Mが飛びません。どのアンテナも、アルミパイプと釣り竿の組み合わせで作っています。アンテナは旋回式の鉄パイプの先に取り付けています。足場用の鉄パイプで作った檣にXマウントで鉄パイプを取り付け、旋回させてベランダの外へ出せる



ようにしています。この旋回式鉄パイプはエレメントの一部になっており、アンテナは、これの先にXマウントで取り付け、アルミ線エレメントとはクリップで接続しています。

最後のアンテナはLOOPアンテナです。EU向けとW向けでは方向が違うため2枚の図のように形が大きく異なります。EU向けのLOOPアンテナは、

ほんとに大きくて、マンションの下から見ると、ヨットの帆のように見えます。これで、7MHzでFR/EとQSO出来ました。VKOMはだめでした。高層マンションでは、ベランダから外へ物を出すと怒られます。そのため、これらのアンテナは、無線をする時のみ組み立てて上げています。また、大型のアンテナは、夜中と早朝のみ上げています。



ラスベガスのメイストリート

ラスベガス郊外の砂漠地帯

シエラネバダ山脈

## Vietnam 会長挨拶

ベトナムでアマチュア無線が開始されてから 15 年目の記念式典が 2004 年 12 月に行われた際の挨拶です。

## Report of 15 years Amateur Radio Activity

(Dec. 1989 - Dec., 2004)

Dear Ladies and. Gentlemen.

Dear members of society and Club.

At first, allow me on behalf the Organiserstaff of Meeting to welcome you warmly and thank you very much for your present today.

Hereinafter I would like to report the founding process and the Amateur Radio activities during 15 years ago as the following:

At 21 December 1989 there was an Amateur Radio group from OSAKA City by Mr Jiro Miyoshi as the group leader to help us to set up an Ham Radio station with the call sign XV2A at the Post and Telecommunication Training Center II And at 25 December Mr Jiro spoke on the seminar of the Training Center to the instructors and students about the meaning of Ham Radio, that was the new land in Vietnam. Continuously at 15, March 1990 The Training Center organized an Amateur Radio operating course for 4 beginners from the training of Mr. Seinoshin Hisamoto.

Although at the first time there "vere many difficulties because people understood not yet the Ham Radio and very worry for it, but we always keep firmly to operating. At 24 January 1996 the Radio - electronic Association of I-Io Chi Minh City issued the Decision to form the Amateur Radio Club in Ho Chi Minh City.

Be so engrossed to 14 July 2002 the Vietnam Radio Electronic Association issued the Decision to permit the founding of the Vietnam Amateur Radio Club according to the basic of the Amateur Radio Club of HCM City before.

We took the meeting to appear the Vietnam Amateur Radio Club since October 19th 2002 in Kim D6 Hotel with the Executive Staff included 6 persons.

With a pleasure the IARU informed the decision to admit the Vietnam Amateur Radio Club as their official member society at April 7th 2003.

Come through a period of 1.5 years activity, from the beginning stage there was only one Ham Radio station and 4 operators to now we have 30 stations included 16 Vietnamese Ham stations and 14 foreigner ones. We took 14 Ham Radio operating courses for 140 participants within there were 132 licensed operators. And we operated with the foreigner stations about one hundred thousand QSOs.

Additionally we arranged 4 Ham operator groups to the Islands for IOTA,

there was the group to Truong Sa Island in 1990, to Con Dao Island 1997, to Hon Tam Island (Nha Trang) in 2001 and to Cu Lao Chain in 2002, operating about 30.000 QSOs.

We participated the Ham fair in Germany and Japan 3 times and in Ho Chi Minh 3 times with a small Ham Radio booth.

For propaganda and Ham Radio movement, we arranged 5 seminars at the Post and Telecoms training Center, the Youth cultural house and Electronic - informatic exhibition. And there were some topics on the newspapers Tuoi Tre and Thanh nien.

That is why the VARC was active many success, because there were helped 3 causes as following :

1. The instruction and support of the

Department General of Posts and Telecommunications Vietnam, the Radio Electronic Association of Vietnam, the Radio Electronic Association of Ho Chi Minh City, the Science and Technic Union of HCMC, the Posts and Telecommunications Training Center, the School of Engineering Technology Hung Vuong, The Hight School Le Hong Phong. The reporters of HTV, Tuoi Tre, Thanh nien, Khan quang do newspaper wrote many titles to introduce the Ham Radio activity as the interesting hobby. For individual Mr Nguyen Minh Duc is the OM very warmly very active and very passionately fond of the Ham Radio.

2. The sincere support and the good will of the International Amateur Radio Union, the IARU Region 3, The American Radio Relay League, The Wireless Institute Australia, the New Zealand Amateur Radio Transmission, The. Germany Amateur Radio Club and the China Radio Sport Association. Specially the warmly help of the Japan Amateur Radio League is very important and practical. Many operating friends from Japan, Australia United State, New Zealand, Sweden so ... help us very much; written on CQ, Ham Radio, Break in magazine and on the website to present the Amateur Radio activity in Vietnam.
3. The Ham Radio activity of the members of Society ourself is very positive, keeps firmly and takes pains to operate, specially the founding members.

Dear Ladies and Gentmen.

Dear members of Society.

On the occasion of this respectful meeting, I would like on behalf the members of the Vietnam Amateur Radio Club to express our gratitude to the offices, Schools and' the individuals inside and outside country as the following:

1. Many thanks of us to the Department. General of Posts and Telecommunications, the Radio Frequency control Center II, The Radio Electronic Association of Ho Chi Minh City, The Sciences and Technics Union of HCMC, The Posts and Telecoms Training Center II and now becoming the Institute Technology of Posts and Telecommunications, School of Engineering Technic Hung Vuong, The Hight School Le Hong Phong.

Many thanks to the reporters of the H'TV, the nespaper Tuoi Tre, Thanh nien and Khan quang do: Many thanks to Mr Nguyen Minh Duc for your possitive Labour to donate for Amateur Radio.

2. The Ham Radio activity was founding, surviving and increasing step by step that depended on the warmly help from the Societies and persons in the other countries. Therefore we would like to thank respectfully the IARU, the IARU Region 3, the JARL, the ARRL, the WIA, the NZART, the DARC, CRSA. Especially Mr. Masa Ebisawa on behalf the JARL participates this meeting that is depieted his. good will and enthusiasm for us. Many foreigner friends help us so much I could not make clear.at all, so allow me to thank some friends, who were attending this meeting:

We express our sincere, gratitude to Mr.

and Mrs. Jiro Miyoshi, who were the pionears to donate us some equipments to set up the Ham Radio station at the Posts and Telecoms Training Center. And they came here many times for guidance and maintenance those equipments continuously.

Many thanks of us to Mr. Sernoshin Hisamoto, who instructed 4 Vietnamese operators and during 15 years ago he came here every year for guidance and advise.

Many thanks of us to Mr Tokujiro Makiguchi, who donated us equipments, Magasines and books and lie came on time 'at our difficult periode, encouraged our non stop practice. That is real "Having difficulty, know of good friend". I don't forget the sincere behave from Mr Makiguchi:

Since year 2000 ago, Mr Shunouke Kuroda is the founder of the Club for Amateur Radio friendship Vietnamese Japanese in Tokyo, he came here every month for his business and advised us many precious ideas, donated some equipments and helped us two times to participate the Ham Fair Tokyo 2002 and 2004. He guided us to submit the application to the secretary of the IARU Region 3 for admission ous club as their member society. We would. like to express our sincere gratitude to Mr Shunsuke Kuroda. We don't. forget to thank Mr. Satoru Matsushima, who is the member of the Ham Radio friendship Japanese & Vietnamese Club for his warmly help.

Many thanks of us to Mr. Karl Melter, who came from the United States, for his transeiver donation and advice the useful experiences to set up antenna and operating.

Many thanks of us to Mr Pierre Siquet, who came from Belgium and was being our club member, for his possible participation our Ham activity.

Dear Ladie and Gentmen.

For the active, plan in the near future, we would encourage and move continuously in the young generation to admit the new club members, who are interesting and eager for Ham Radio hobby.

We would find-out the volunteer sponsors to donate some equipments to set-up some shacks on the faar Islands, because that isn't the hobby only but also,the emotional ties between the people in country and on the faar Islands.

This station must be having power supply by solar-cell or wind-energy.

For proposal motion, we would like to suggest to the Ministry of Posts and Telecommunications to considering and renewing the Amateur Radio regulation, which will be easier for obtaining the operating licence but without influence to the country's authority.

Dear Ladies and Gentmen

Dear members of Society

To final our report, I would like to thank you again for your present at this meeting. Many thanks to Mr. Le Tue - the Head master of this college and his collaboratorstaff for the arrangement this meeting very well.

On the occasion of the Christmas and New Year 2005, I would like to wish you good health, happiness and a succesful year.

Thank you very much for your attension.

December 15th 2004

(写真 5 ページに掲載)

## アイハウ斯拉ジオクラブ 2004年12月例会報告

JA3UB 三好二郎

毎年12月に、大阪国際交流センターと大阪市姉妹都市交流協議会の主催する「国際交流の夕べ」がある。サンフランシスコ姉妹都市協会、シカゴ協会、メルボルン姉妹都市協会、サンパウロ姉妹都市協会、ハンブルグ友好都市協会が協賛してアイハウス会員、在阪領事館関係者、留学生等が食事をしながら交流する場であるが生演奏やクイズ、抽選会などもある。大半のラジオクラブメンバーはアイハウスの会員でもあるので毎年何人かのメンバーがこの催しに参加しているが2004年の12月例会日は同日であり会員の同伴者も参加できるので月例会を兼ねることになった。例年に比べて外国人の参加が少なかったがゲストの中国総領事のスピーチはメモも持たずに堂々たる日本語で内容もすばらしかった。外国で日本を代表する立場の人達と同席する機会があるが、それらの人達は見劣りすることが多く残念だ。抽選会では特等ルフトハンザのEU往復航空券は他所の人に当たったが多くのメンバーが賞品を得た。イベント終了後クラブ会議を開き、来年の関ハム出展計画、DXコンベンション、再来年のSEANETコンベンションについて話し合った。尚、2005年1月の例会日は新年会を兼ね1月28日(金)と決定。



駐大阪中国総領事

参加したI-house ラジオクラブのメンバー



出席者：JA3AA, JA3UB, JA3AER, JA3AOP, JA3PYC, JA3VWT, JE3BEQ, JK3IYB, JO3LZG, JP3AZA, JP3ILG, JR3MVF (12名)

## SEANET 2004 主催の RAST から津波災害援助基金の お願い E メール

JA3USA 島本 正敏

インド洋周辺での津波被害の大きさについては、あちこちで報道されていますから詳しくご存知だと思います。日本の NGO やその他の団体が援助のために現地に出かけたりもしていますし、被害の大きかったアンダマンで DX ペディションをしていたインドのグループも本土との非常通信に協力しています。今月の NL にも記事のある 2004 年 SEANET コンベンションを主催した RAST も寄付集めを始めました。協力要請の E メールが Radio Amateur Society of Thailand の副会長 Tony (HSOZDX) から来ていますので紹介します。

Dear member or friend of RAST,

As you have no doubt heard, the western coast of Thailand was devastated by a tsunami (tidal wave) on Sunday morning and as rescue efforts continue on Tuesday afternoon the death toll now exceeds 1,000 and is likely to rise to over 2,000 as more bodies are recovered from remote areas and islands. In addition, over 7,500 Thais and foreign tourists are now receiving medical attention.

The Thai government has appealed for donations to assist people in the devastated areas while RAST understands that as far as Thailand's communications needs are concerned, the situation is now under control.

Thai hams are helping to relay information between the affected areas along the west coast in the South to government agencies, mostly on VHF and 40 metres, as well as disseminating news and

information over VHF frequencies in Bangkok.

Echolink, too, has played a role in enabling radio amateurs here to relay information to concerned friends and relatives of those holidaying in the affected areas.

I have spoken with our President Mrs Mayuree Chotikul, HS1YL, and to other officers of RAST as to what our society might be able to do to help in the wake of this disaster and, in particular, as to how to respond to offers of help and support already received from ham friends around the world.

We agree that what is now needed the most is help for the many thousands made homeless by the tsunami and so RAST is now accepting donations and will pass on all financial support received to the Thai Government which has opened a channel for this.

We will, of course, give full credit to the international amateur radio community and to the individual donors and donor organisations.

The best way to transfer funds to RAST for this purpose is by wire transfer, the details of which follow:

Siam City Bank  
Ratchawat Branch No 111  
Account Type: Savings  
Account Number: 111-2-22688-4  
Account Name: RAST

(Full name: Radio Amateur Society of Thailand, under the Royal Patronage of His Majesty the King)

We also ask that all donors send details of their support to dx@thai.com by email or by Fax to +662-321-6443 for our records so that we can acknowledge this and give full credit.

Please help Thailand in this time of need in any way you can, and we encourage you to pass this appeal along to any others whom you feel may be able to help.

Thank you

Sincere 73,

Tony Waltham, HSOZDX

Vice President, Radio Amateur Society of Thailand  
Under the Royal Patronage of His Majesty the King



2004年12月18日に開催されたベトナムでのアマチュア無線開始15周年記念式典で挨拶されるベトナム無線連盟会長

大阪国際交流センターラジオクラブ

**JI3ZAG**

Web: <http://ja3.net/ihouse>

**ロールコール**

毎週土曜日 9:00JST@14.160MHz

**月例会**

大阪国際交流センター  
毎月第2金曜日